

# 令和5年度 学校経営環境分析書

令和5年4月7日  
(三原市立鷺浦小) 学校

外部環境	<p><b>O</b> (支援的要因)</p> <p>【地域】</p> <p>① 地域が学校の存続を必要と考え、積極的に協力・支援をしてくださる。</p> <p>② 児童の学習材となる教育資源が豊富にある。</p> <p>【市・市教委】</p> <p>③ 本校の経営環境を理解のうえ、魅力ある学校づくりという学校経営を行うための支援体制が整っている。</p> <p>④ 教頭支援のための非常勤講師など、人的支援を行っている。</p> <p>⑤ 特認校制度による児童の通学をバックアップしている。</p> <p>【県教委】</p> <p>⑥ 「学びの变革」アクションプランなど、様々な取組事例が豊富に提供されている。</p>	<p><b>S</b> (強み)</p> <p>【学校】</p> <p>① 様々な特色ある教育活動の取組が蓄積されている。</p> <p>② 小規模校の良さを活かして、計画・意思決定・実行までを迅速に行うことができる。</p> <p>③ ICT環境の整備により、オンラインで児童・保護者との時間的・物理的距離を解消できている。</p> <p>【児童】</p> <p>④ 少人数であり、一人一人の児童の状況を把握しやすい。</p> <p>⑤ 年少の児童をいたわるなど、お互いを認め合う雰囲気がある。</p>	内部環境
	<p><b>T</b> (阻害的要因)</p> <p>【地域】</p> <p>① 離島であるために生活面の制約が多く、子育て世代の移住が難しい。</p> <p>② 船便が少なく、島外への移動時の制約が大きい。</p> <p>③ フェリー航路の廃止による時間的な制約の増加</p>	<p><b>W</b> (弱み)</p> <p>【学校】</p> <p>① 人事異動による業務の引継ぎ・取組の継続が困難。</p> <p>② 通勤・通学が天候等に左右されやすい。</p> <p>③ 新規システム導入、県教委・市教委施策に応じるための職員一人当たりの負荷が大き過ぎる。</p> <p>【児童】</p> <p>④ 多様な実態・背景を有する児童が増加し個別の支援が必要。</p> <p>⑤ 学年間の児童数のバランスが悪い。</p> <p>【保護者】</p> <p>⑥ 島内の保護者が減り、従来の取組の継続が難しい。</p>	

支援的要因と強みを生かした活動・取組は

- ・地域と連携した、特色ある教育活動の推進  
[O-①②③ S-①②⑤]
- ・個の実態に応じた、きめ細かな指導の充実  
[O-③④⑤ S-②③④]

- ・メリハリをつけた業務の遂行  
[T-③ W-②③④]
- ・船便の時刻に合わせたスケジュールの工夫  
[T-②③]
- ・保護者との機を逃さない丁寧な連携  
[W-④]
- ・取組内容の見直し・充実  
[T-① W-①⑥]

弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は

- 1 個別最適な学びの推進
  - ・特別支援教育の視点を生かし、児童一人一人の実態にあった支援を行いながら授業改善を行い、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」学びを創造することで、児童に達成感を感じさせるとともに児童の主体的な学びを促進する。
- 2 地域の特色等を生かした特色ある教育活動の推進
  - ・佐木島という地域の特色(人・もの・自然)を生かした体験学習や、落語や太鼓などの表現活動等を通して、「ふるさと意識」「母校意識」を育成するとともに、自己肯定感を高める。
  - ・外国人を相手に「英語を使う必然的な機会」を計画的にするなど、英語教育(外国語活動)の充実をはかり、グローバルな見方、考え方をもたせるとともに、コミュニケーション能力を育成する。